

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:17.

人工肛門を造設した認知機能低下のある高齢者への看護介入への検討

後藤 杏奈, 安田 美紀, 山田 亜理沙, 登立 碧

## 人工肛門を造設した認知機能低下のある高齢者への看護介入への検討

旭川医科大学病院 6階東ナースステーション ○後藤 杏奈 安田 美紀 山田 亜理沙 登立 碧

### 【目的】

認知機能低下のある高齢者が退院となるまでの経過を振り返り、有効な看護介入の検討を行う。

### 【方法】

X病院で平成27年4月～28年7月までにストーマ造設した患者のうち、認知機能低下がある80～90歳代の男女4名を対象とした。看護記録より看護介入及び患者の言動を抽出、コード化した。「術前（Ⅰ期）」、「術後から初回ストーマケアまで（Ⅱ期）」、「初回ストーマケアから便処理指導開始前まで（Ⅲ期）」、「便処理指導開始から退院まで（Ⅳ期）」の4期に分けてカテゴリー化した。

### 【結果】

計95個のコードを抽出し、カテゴリーはⅠ期7個、Ⅱ期3個、Ⅲ期5個、Ⅳ期20個となった。認知機能低下のある高齢者は全時期で手術やストーマ造設を忘れるという特徴がみられた。

### 【考察】

看護師は術前から患者の身体状態や認知機能

に応じたセルフケア目標を設定し、繰り返し介入することで患者の成功体験へとつなげていった。また、手術をした現状を伝える、パウチと一緒に触れて確認するなどのリアリティ・オリエンテーション（以下ROT）により、忘れることを繰り返しながらも、少しずつ“ストーマが造設された自分”を認識出来るようになったと考える。そして、ROTによる見当識の補強と、患者状態に応じた安全対策は、問題行動を抑える有効な介入であった。さらに、パウチの確認や便処理を繰り返し行うことで手続き記憶として記憶できたと考える。

### 【結論】

患者に合わせたセルフケア目標を設定し、ROTを実施していくことは有効な看護介入であり、ストーマ管理を獲得できる可能性がある。ROTによるストーマの意識付け、患者に応じた安全対策は、問題行動を抑える有効な看護介入であった。認知機能低下があっても、患者が出来ることに着眼し、能力を最大限に活かす介入が重要である。